

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	エスリード今池一丁目	階数	地下1階地上11階	
建設地	愛知県名古屋市千種区今池一丁目2807番	構造	RC造	
用途地域	商業地域	平均居住人員	60 人	
地域区分	6地域	年間使用時間	XXX 時間/年(想定値)	
建物用途	集合住宅	評価の段階		
竣工年	2023年4月 予定	評価の実施日	2022年3月9日	
敷地面積	332 m ²	作成者		
建築面積	221 m ²	確認日	2022年3月11日	
延床面積	2,097 m ²	確認者		



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
= BEE 0.7 ★:S:★★★★★ A:★★★★★ B+:★★★★ B-:★★★ C:★ 標準計算 ①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+ このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです	☆:☆☆ 100%超:☆☆☆ 100%:☆☆☆☆ 80%:☆☆☆☆☆ 60%:☆☆☆☆☆☆	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境（敷地内）
Q1のスコア= 2.7	Q2のスコア= 2.6	Q3のスコア= 1.5
LR 環境負荷低減性		
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
LR1のスコア= 3.8	LR2のスコア= 3.0	LR3のスコア=2.3

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
建物の外観は、すっきりとしたデザインとしゴミ置場も建物と一体とし美観に努めた。		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境（敷地内）
バルコニー側の窓を大きく取り、採光や換気に十分配慮した。	平置き駐車場に加え、機械式駐車場を設け車利用者に配慮した。	敷地内緑化に努め、管理入室や防災倉庫を設けることで住人の災害時対策や共用部の清掃管理に考慮した。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
省エネルギー対策を行った。	界壁を乾式間仕切壁とし間取りの変更が容易に行え、長期に渡って使用できる計画とした。	ゴミ置き場に扉を設置し、周囲からの美観や、ゴミの臭いに配慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency（建築環境総合性能評価システム）
■Q: Quality（建築物の環境品質）、L: Load（建築物の環境負荷）、LR: Load Reduction（建築物の環境負荷低減性）、BEE: Built Environment Efficiency（建築物の環境効率）
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

エスリード今池一丁目

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.4
LR1	エネルギー	3.8	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.3	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	1.0	0.066666667	
2. 自然共生				1.0
Q3.1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	1.0	0.045	
3. 循環型社会				3.0
LR2.1	水資源保護	0.0	0	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.0	0.225	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.5	0.022222222	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.4



2. 自然共生

評価点 = 1.0



3. 循環型社会

評価点 = 3.0



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。